
平成 25 年度
グローバル人材育成推進事業
実績報告

平成 26 年 5 月
共愛学園前橋国際大学
グローバル人材育成推進本部

目次

1 教育課程の国際通用性の向上への取組 1

1-1 大学のグローバル化に向けた戦略と教育課程の国際通用性の向上に向けた取組

- 1-1-1 大学の戦略的な目標への位置づけ 1-1-2 大学のグローバル化の推進体制

1-2 教育課程の国際通用性の向上

- 1-2-1 「Global Career Training 副専攻」の開設 1-2-2 アクティブ・ラーニングの充実

1-3 戦略的な国内外への教育情報の発信

- 1-3-1 公式 WEB の英語化 1-3-2 グローバル事業専用HP、Facebook の立ち上げ
1-3-3 地元高校生向け公開授業の開催 1-3-4 グローバル人材育成シンポジウムの開催、他

1-4 事務体制、学内のグローバル化

- 1-4-1 グローバル人材育成推進本部事務局による事業運営 1-4-2 教職員の英語能力開発

2 グローバル人材として求められる能力の育成への取組 7

2-1 地域連携による人材育成“Gunma Global Project Work”

- 2-1-1 海外サポートインターンシップ 2-1-2 児童教育ワークショップ
2-1-3 グローバルビジネスセミナー 2-1-4 ミッションコンプリート研修

2-2 「Global Career Training 副専攻」の開設

- 2-2-1 「Global Skills 科目群」の開講 2-2-2 「One on One English」の開講

3 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組 15

3-1 入試における中等教育までの外国語力、留学経験等の適切な評価

3-2 効果的な語学教育及び教育体制

- 3-2-1 入学前 TOEIC 講座の実施 3-2-2 入学前留学ガイダンスの実施
3-2-3 学期毎のプレイスメントテスト 3-2-4 1対1 英語コミュニケーション学修プログラムの導入
3-2-5 e-learning の充実

4 教員のグローバル教育力向上への取組 18

4-1 教育体制のグローバル化

4-2 グローバル教育力向上のための取組

5 日本人留学生の留学を促進するための環境整備に向けた取組 19

5-1 動機付けや留学を促進するための取組

- 5-1-1 留学ガイダンス、提携校の充実 5-1-2 海外留学プログラムの拡充

5-2 留学中から帰国後にわたるサポート体制

6 その他 22

6-1 次年度以降のプログラム開発に向けた動き

6-2 グローバル人材育成推進事業採択大学との連携

1 大学のグローバル化に向けた戦略と教育課程の国際通用性の向上に向けた取組

1-1 大学のグローバル化に向けた戦略

1-1-1 大学の戦略的な目標への位置付け

平成 25 年中の議論により、本学の平成 26 年度～30 年度中期計画(平成 26 年 1 月策定)において、大学の教育研究計画として、「グローバル化する地域の振興を担う人材の育成」、「グローバル人材育成推進事業の滞りない実施と、これを契機とする教育力の向上」、「海外にひらいた人材育成のしくみの強化」を盛り込み、大学全体の戦略的な目標に位置づけ、教職員全体で改めて共有した。

1-1-2 大学のグローバル化の推進体制

平成 24 年度において発足させた「グローバル人材育成推進本部」並びに同事務局、加えて、同本部が事務局を担う「グローバル人材育成推進協議会」は、本事業の推進を進め、また協議会による各種の事業が展開されたところである。※個々の事業については後述。

1-2 教育課程の国際通用性の向上

1-2-1 「Global Career Training 副専攻」の開設

平成 24 年度中に策定した「Global Career Training 副専攻設置規程」に基づき、語学を学ぶ Global Language Intensive(以下「GLI」)、理論とスキルの Global Skills(以下「GS」)、実践学修の Global Project Work(以下「GPW」)の 3 科目群で構成する副専攻を平成 25 年度前期より一部科目を残し開設。

学生のグローバル力を高めるため、既存科目であった語学授業、留学プログラムおよび新設科目「One on One English」を GLI に組み込み、新しく開講する GS、グローバル人材育成推進協議会が展開する Gunma Global Project Work の各種プログラムを科目として認定する GPW を加え、副専攻科目とした。

また、本年度の審議により、GLI に「Academic Writing I・II」を新設すること、これまで英語コースのみに開講されていた「Professional Presentations I・II」「Business English III・IV」「Advanced Listening I・II」「Advanced Reading I・II」「Advanced Speaking I・II」「Advanced Writing I・II」の他コースへの開講、「Global Project Work V」の新設が決定され、平成 26 年度に本副専攻が完成することとなる。

【成果、所感】

新規科目群である GS においては、対象学生 317 人中 104 人が履修。また、今年度より開講した GLI の One on One English、GPW の履修者もそれぞれ 100 人、22 人が履修する結果(平成 25

年 12 月時点見込み)となり、学生の知識欲を満たすことはできたと思われる。および、GS における履修学生の満足度も全体平均と比べ、13.3 ポイント高く、内容においても評価された。

新設の GS は、本学の理念と目的を具現化し、カリキュラムの中心をなす「共愛コア科目」に認定されており、本学カリキュラムの柱の一つに位置づいている。加えて、本学にとって初めての6時間目の開講、社会人の合同受講、全て英語によるアクティブ・ラーニングであるという本学にとっては全く新たな特徴を持つものであるが、上述のように一定の履修者を得て実施出来たことは、一つの成果といえるだろう。※詳細は後述。次年度以降は、更なる授業の質を高め、科目の拡充を図る予定。

1-2-2 アクティブ・ラーニングの充実

現状、総授業の約 75%が何らかのアクティブ・ラーニング要素(PBL・SL・グループワーク・グループワーク、ディベート、フィールドワーク、プレゼンテーション、振り返り等+語学・情報スキル・体育・演習)を展開する授業となっている。

そこで、より効果的な学習を目指すため、昨年度導入したクリッカー(*)等を使用し、リアルタイムの学生の理解度等を把握し、授業に反映させていくことにした。

アクティブ・ラーニングによる学生の授業習熟度変化の一例として、授業の検証も以下の内容で行った。

【実施内容】

- ・実施日： 10/14(祝)、15(火)
11/18(月)、19(火) すべて 18:00-19:30
- ・実施授業： Global Leadership(月)、Multicultural-Communication(火)
- ・講師： 謝 志海
- ・検証内容 4回目授業と9回目授業において、クリッカー(*)を用いて授業内容の理解度、授業への集中度という2軸で測定。
*リアルタイムアンケート集計装置

【成果、所感】

巻末別紙「クリッカーによるアクティブ・ラーニング効果測定に関する調査報告書」参照

1-2-3 シラバスの充実・英語化、ナンバリング制度の導入検討、学修時間の確保による単位制度の実質化

平成 24 年度にシラバスの英語化を実施し、平成 25 年度においても継続、変更されたシラバスの英語化を中心に作業を行う。また、本年度の議論により平成 26 年度よりアクティブ・ラーニング

の実施、授業外学修の内容や所要時間を記載するようシラバス記載指示書を改定した。

ナンバリング制については、平成 24 年度に実施した国内先進大学の視察をもとに教務グループが検討を重ねており、平成 27 年度より実施できるよう、具体案の策定にとりかかっているところである。

学習時間の確保については、学生の学修時間の実態調査を実施することとしているが、これまで一部学生の調査のみであったことから、平成 26 年度に全学調査を実施する予定である。

1-3 戦略的な国内外への教育情報の発信

1-3-1 公式 WEB の英語化並びに英語版パンフレットの作成

前年度開設した英語版公式 WEB の継続的な運用を実施。英語版 HP のトップ画面において、「What's New」コーナーを新規に開設。

これらの情報更新を継続的に実施することにより、本学に興味を示し留学を希望する方に有用な情報提供ができた。

また、本学への入学を希望する留学生向け、および海外での広報活動用に英語版パンフレットを平成 26 年 2 月にし、海外大学への訪問時に配布した。



← 英文公式ホームページ

1-3-2 グローバル事業専用 HP、Facebook の立ち上げ

グローバル人材育成推進事業専用の HP、Facebook を立ち上げることにより、対外広報に努めた。HP には事業概要、活動報告、学生・教職員のインタビュー等を掲載し、Facebook には日々の活動、学生への情報提供を中心に掲載した。

今後の課題として、在学生にグローバル人材育成推進事業をより意識してもらうため、Facebook におけるフォロワーの数(85 人:平成 26 年 3 月 25 日現在)を増やすなどの打ち手が必要と考える。

・ホームページ : <http://ghrd.kyoai.ac.jp/>

・Facebook : <http://www.facebook.com/KYOAI.GLOCAL.PROJECT?fref=ts>



(左)Facebook 専用ページ、(右)グローバル人材育成推進事業専用ホームページ

1-3-3 地元高校生向け公開授業の開催

グローバル人材育成推進事業採択大学で本学と同じく東日本第一ブロックに属する神田外語大学と連携して、地域の中高校生向けに「教科書に載っていない世界の授業」をテーマに公開授業を開講。後述するグローバル人材育成推進協議会メンバーであり、地元のグローバル企業である株式会社サンデンからも社員の方に講師として参加していただいた。

参加者は 218 人。夏休みの時期とはいえ、多くの生徒、保護者、教育関係者の方々の参加があった。

【実施内容】

- ・開催日時: 8/9 日(金) 10:00-16:00
- ・場所: 共愛学園前橋国際大学 1号館、4号館
- ・内容: 24の公開講座を午前、午後を開講。
＜以下、本学教員、株式会社サンデン担当講座＞
 - ▶「お金をめぐる日本・韓国・中国・ベトナムの子供たちの生活世界」
呉 宣児(本学教員)
 - ▶「『未来の世界人を創る!』-大学生が紹介する児童英語の教え方-」
井熊ひとみ(本学教員)、本学学生
 - ▶「現代中国の社会文化を知るキーワード」 謝志海(本学教員)
 - ▶「フランス人と一緒に仕事をして」 峯岸隆臣(株式会社サンデン)
- ・来場者: 218人



←公開授業「大学生が紹介する児童英語の教え方」での学生発表

1-3-4 グローバル人材育成シンポジウムの開催、他

本学のグローバル人材育成推進事業の取組を学生、保護者、地域の社会人に広報するため、基調講演、パネルセッションを交え、グローバル人材育成推進シンポジウムを開催(2014年3月予定)する予定。

また、以下のイベント、ミーティングに参加することにより、本学のグローバル人材育成推進事業の広報を高校生、保護者、教育関係者に広報することができた。

▶「グローバル人材育成に積極的な大学」進学説明会

- ・日時: 9/21(土) 11:00-16:00
- ・場所: アクセス渋谷フォーラム
- ・来場者: 309人

▶第1回 Go Global Japan Expo

目指せ!世界にはばたくグローバル人材!～進学・留学・キャリアを考える～

- ・日時: 12/15(日) 9:30-18:00
- ・場所: 早稲田大学(大隈記念講堂、小野記念講堂、1号館、26号館)
- ・来場者: 4,100人

主催: 文部科学省、グローバル人材育成推進事業採択大学42校

後援: 朝日新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

協力: 米国大使館/EducationUSA、オーストラリア大使館マーケティング事務所、カナダ大使館広報部、Campus France-フランス政府留学局・日本支局、ドイツ学術交流会(DAAD)、プリティッシュ・カウンシ

ル、グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)、JAFSA(国際教育交流協議会)、日本学生支援機構(JASSO)

協 賛:朝日ネット、アネスタ、アルク/アルク教育社、ETS TOEIC、ETS TOEFL、全日本空輸、ディスコ、東京海上日動火災保険、日本英語検定協会 IELTS 事務局、日本航空、ベネッセコーポレーション(GTEC for STUDENTS)、マイナビ国際派就職(マイナビ)

1-4 事務体制、学内のグローバル化

1-4-1 グローバル人材育成推進本部事務局による事業運営(継続)

前述の通り(1-1-1)、平成 24 年度に発足したグローバル人材育成推進本部事務局が本事業の各論を運営。この事務局は統括 1 人、統括代理 1 人、専門員 2 人、事務員 3 人の 7 人体制で設置。専門員は海外留学プログラムの企画立案・運営・引率、日本人留学生の相談窓口等の業務、事務員は本事業の運営全般、統括代理は全体マネジメントを行う。

新しく組織を立ち上げたことにより、既存職員に追加の業務負荷がかからず、新たな試み等が迅速に行うことができた。

また、専門員、事務員共にビジネス英語に長けており、急な海外との業務のやり取り発生に際しても素早く対応することが可能となった。

1-4-2 教職員の英語能力開発

教職員の英語能力を伸長させるため、Skype による海外講師との 1 対 1 レッスン、e-learning を全教職員(Skype レッスンは希望者)に開放した。

結果として、Skype レッスンは 15 人、うち 3 人が e-learning を受講。教職員全体 73 人中、20.5% が受講することとなった。

今後の課題として、英語能力開発の取組みをするのみならず、その効果として教職員の英語能力の伸長につき可視化する必要がある。

2 グローバル人材として求められる能力の育成に関する取組

2-1 地域連携による人材育成 ~Gunma Global Project Work~

地域のグローバル人材育成を目的として、伊勢崎市教育委員会、サンデン株式会社、早稲田大学社会連携研究所、明治大学文明とマネジメント研究所と共に、「グローバル人材育成推進協議会」を平成 25 年 2 月に発足。

その活動の一環として、以下(2-1-1~2-1-4)のグローバルプロジェクトワークを実施した。

2-1-1 海外語学研修サポートインターンシップ

伊勢崎市内の中学 3 年生(60 人)のミズーリ州立大学における語学研修に同行し、事前事後研修の補助、引率教員のアシスタント業務、中学生の現地での円滑なコミュニケーションに向けた英語によるフォロー、中学生のメンタルアドバイザー等、中学生の現地サポートおよび中学校教員の仕事を体験するインターンシップを実施した。

また、学生は中学生のサポート等とは別に、ミズーリ州立大学 Kurtis 教授より、「英語教授法」、「ビジネスイングリッシュ」についての特別講義を受講し、自身の基礎力を高めてきた。

【実施内容】

- ・実施日 (国内) 事前研修 5/11(土)、21(火)、6/15(土)、28(金)、
7/24(水)、8/1(木)
事後研修 8/23(金)、31(土)、9/7(土)
(海外) 8/4(日)~8/17(土)
- ・実施場所 (国内) 伊勢崎市役所内会議室他
(海外) ミズーリ州立大学
- ・参加者 本学学生 5 人、引率職員 1 人
※伊勢崎市中学生徒 60 人、伊勢崎市中学教員 6 人

【成果・所感】

本プログラム参加後の学生の自己評価によると、「実行力」、「課題発見力」、「傾聴力」の項目において、5 段階中平均 4.0 以上であり、参加学生の多くは参加前より伸びたと実感している。中学生と教員の間立ち、自身で問題を発見し、考え行動するというトレーニングができたと思われる。

>参考:研修参加後の自己評価(5 段階評価。1 まったく伸びなかった~5 非常に伸びた)

- | | | | |
|----------|------------|----------|------------|
| ▶主体性 3.8 | ▶働きかけ力 3.6 | ▶実行力 4.0 | ▶課題発見力 4.0 |
| ▶計画力 3.4 | ▶創造力 3.2 | ▶発信力 3.8 | ▶傾聴力 4.6 |

▶柔軟性 3.6 ▶情報把握力 3.4 ▶規律性 3.8 ▶ストレスコントロール力 2.8

また、参加した学生の感想として、「頑張りたいと奮起している生徒の姿を見て、自分自身も励まされ、頑張ろうと感じた」、「自身にとって、なぜ英語を勉強するのか、なぜ英語が重要なのか、と英語学修について振り返る良い機会であった」などの意見が多く、精神的にも成長したことが汲み取れた。

なお、ミズーリからの帰国後、解散場所において中学生が、本学学生と別れを惜しみ涙しながら感謝していたことが印象的であった。このようなことから、今回のプログラムは成功であったといえる。



(左)日々の反省会では学生が中学生にアドバイス、(右)毎朝のラジオ体操は学生がリーダー

2-1-2 児童向けグローバル教育ワークショップ(WS)

伊勢崎市内の小学6年生に向けて、伊勢崎市教育委員会と協働して、グローバル教育ワークショップを開催。「初めての海外旅行 in 群馬」をテーマに、英単語によるBINGO、海外の文化等を素材にした〇×クイズ、世界各国を紹介するプレゼンテーションを通して、児童に海外を身近に感じてもらおうワークショップを学生が企画、運営した。

児童に学びの場を提供するとともに、学生が自ら地域児童のことを考え、企画を立案、運営することを通して、グローバルリーダーの資質である主体性・積極性、責任感・使命感、および地域人としてのアイデンティティを育んだ。

【事前企画立案ワーク】

- ・実施日 6/15(土)、7/6(土)、7/13(土)、7/20(土)、8/5(月) 各日 13:00-17:00
- ・内容 ファシリテータを招き、小学6年生に何をすることが、彼らに海外を身近に感じてもらえるかをゼロベースから、プレスト、KJ法等を使いながら、思考を整理し、企画を立案。また伊勢崎市教育委員会の指導主事の訪問を受け、企画内容

について指導を受けながら討議を行った。

7/6(土)には、中学生とのワークショップ経験のあるグローバル人材育成推進協議会で連携する早稲田大学のボラティア学生団体を招き、意見交換をすることにより、発想の幅を広げることができた。

【企画運営ワーク】

- ・実施日 8/7(水)、8(木) 9:00-17:00
- ・実施場所 共愛学園前橋国際大学 KYOAI COMMONS
- ・内容
 - ▶English Bingo
 - ▶ワールドクイズ
 - ▶フォトフレーム作り
 - ▶世界体験～担当自国のプレゼンテーション
- ・参加者 本学学生 6 人
※伊勢崎市小学 6 年生児童 32 人

【成果、所感】

参加した児童の保護者ほぼ全員より、子供が非常に楽しんだようで、家に帰ってからもワークショップの話をしてくれた等の意見をいただいた。地域児童に楽しくグローバルを体感してもらうという目的は達成できた。

また、事後の学生レポートによると、本 WS に参加したことにより、物事に取り組む姿勢について、改めて自分の未熟さを感じた等の意見が多く見受けられた。この WS 参加を機会に履修学生自身は成長したと思われる。



(左)学生が各国の歴史・文化・生活をレクチャー、(右)英語クイズの1シーン

2-1-3 グローバルビジネスセミナー

学生の視野を拓げるため、駐日大使、大使館職員、海外で実際に活躍している地域グローバル企業のビジネスマン、地域を軸にしながら世界展開を視野に入れている企業の社長を本学に招聘し、学生に刺激を与える講演をしていただいた。講演後は、講師と学生の意見交換の場を持ち、学生の様々な疑問などを解消する場をもった。

また、一部の講演は、地域のグローバル人材育成の観点から、伊勢崎市内の中学校でも同様の講演を企画・運営。

▶講師> アメリカ大使館広報部特別補佐官 クリスティン・シン 氏

・実施日 5/14(火) 18:00-19:30

・講義内容 「アメリカにおける」多文化主義」

・参加人数 66 人

▶講師> 駐日ブルガリア共和国大使館書記官 ダニエラ・ニコロヴァ 氏

日本ブルガリア経済委員会事務局長 佐々木 文徳 氏

・実施日 10/10(金) 10:30-12:00

・講義内容 「ブルガリアコネクション」

・参加人数 60 人

▶講師> 駐日ブルガリア共和国大使 ゲオルギ・ヴァシレフ 氏

・実施日 11/13(水) 14:20-15:50

・講義内容 「ブルガリアの魅力 ～その歴史・文化・人～」

・参加人数 320 人

▶講師> サンデン株式会社 タイ現地法人代表 中澤 健治 氏

・実施日 11/25(月) 18:00-19:30 (予定)

・講義内容 「Global Leadership」

・参加人数 30 人

※グローバル人材育成推進協議会活動の一環として、同内容を、同日 14:00 より、伊勢崎市立第 3 中学校(参加 120 人)において実施。

▶講師> 株式会社ジェイアイエヌ 代表取締役 田中 仁 氏

株式会社コシダカホールディングス 代表取締役 腰高 博 氏

相模屋食料株式会社 代表取締役 鳥越 淳司 氏

・実施日 12/19(木)

- ・講義内容 「Gunma Innovation Meeting in University 第1回 地域と世界をつなぐグローバル・マインド」
- ・参加人数 340人

2-1-4 ミッションコンプリート(課題解決型)インターンシップ研修

語学力向上のみならず、グローバル人材としての資質である主体性、コミュニケーション力、協働性等の社会人基礎力を磨くために、昨今、企業研修においても導入されているミッションコンプリート(課題解決型)研修をタイにて実施した。

正解のないビジネス社会において、いかなる状況においても自分で考え、行動することができるよう、日常と全く異なる海外にて課題を与え、それを解決するアプローチの仕方を講師にアドバイスを受けながら実践する。

【実施概要】

- ・実施日 平成26年 3/2(日)～15(土)
- ・場所 バンコク郊外、タマサート大学、サンデン株式会社アユタヤオフィス
- ・内容
 - ▶事前研修 5日間(現地事情の理解、簡単な語学、など)
 - ▶現地実習 13日間
 - ・海外大学体験研修
 - ・現地企業より様々なミッションが与えられ、それをクリアしていく。
ミッション①:タイ語で自己紹介できるようにしてください
ミッション②:外国人観光客の生の声を聞いて、国際的なリゾート地としてのプーケットの魅力を調査・報告せよ
ミッション③:プーケットの現地旅行会社からミッションの依頼を受けました。これから旅行会社に行って、彼らの依頼に応じてください
ミッション④:プーケットに日本人観光客を増やすためにはどのような施策が考えられるか? マリオットのスタッフに提案せよ!
 - ▶事後研修 1日間(国内のサンデン株式会社へ訪問し、研修報告)



(左)現地の方へアンケート実施中、(右)旅行社へのプラン提案

【成果、所感】

英語の通じないタイにおいて、現地の企業から課題を与えられ、何もしないでは済まされない状況下に置かれた学生は、最初は戸惑っていたが徐々に自身で考え、行動に移すことができた。企業の方より、様々なアドバイスを受け、一つずつ課題を解決していくことは最良の就業体験にもなった。実際にこの研修が終わった後、自ら考え学ぶ学生も増えてきた。数字には表すことができないが、これは非常に大きな効果であったといえる。

2-2 「Global Career Training 副専攻」の開講

2-2-1 「Global Skills 科目群」の開講

グローバル人材としての資質である語学力、主体性・コミュニケーション力・協働性等の社会人基礎力を伸ばさせるため、副専攻の一部として「Global Skills 科目群」を4月より開講した。また、この授業は本学で初めての英語のみによる授業として実施。

なお、英語による授業のため、受講対象者をTOEICスコア400以上とした(Aクラス:TOEICスコア600以上、Bクラス:TOEICスコア400以上)。

・開講授業一覧、受講状況(A,Bクラス合計)

▶Multi-Cultural Understanding	受講者 79人
▶Multi-Cultural Communication	受講者 59人
▶Global Leadership I / II (前、後)	受講者 前期 34人、後期 17人
▶Global Business Training I / II (前、後)	受講者 前期 32人、後期 27人
▶Team Based Learning I / II (前、後)	受講者 前期 44人、後期 22人
▶Problem Based Training I / II (前、後)	受講者 前期 42人、後期 34人

【成果、所感】

受講者対象者(TOEICスコア400以上)317人中、32.8%の104人が参加した。また、受講者は平均1.9科目受講しており、このようなグローバル力を高める授業へのニーズの高さが明確となった。前期受講者アンケートによると、授業難易度は5段階中2.42point(1が難しい、5が易しい)であり、やや難しいと学生は感じたようであったが、授業の雰囲気(4.78point、全体平均4.2point)、教員の熱意(4.82point、全体平均4.4point)、総合評価(4.76point、全体平均4.2point)と絶対的、相対的に高いpointであり、学生の能力をストレッチさせる良い機会を提供することができた。



(左) チームに分かれて英語によるディスカッション、(右) 社会人の方もディスカッションに参加

2-2-2 「One on One English」の開講

今年 2 月のトライアルを踏まえ、Skype を利用した海外講師との 1 対 1 の英語レッスンと話す・聞く・書くの英語能力を高める e-learning を組み合わせた「One on One English」を 4 月から開講した。

【実施概要】

- ・実施時期 前期(5-7 月)、後期(10-1 月)
- ・実施場所 本学 専用語学ブース、自宅、他
- ・受講者数(定員) 前期、後期とも各 50 人
 前期 4 年生 7 人、3 年生 17 人、2 年生 17 人、1 年生 9 人
 後期 4 年生 9 人、3 年生 14 人、2 年生 16 人、1 年生 11 人
- ・内容 フィリピン在住海外英語講師と Skype を利用した英語レッスン(60 分)*30 回
 話す・聞く・書く、を学ぶ e-learning(約 30 分)*30 回

【成果、所感】

履修者は履修後の TOEIC において、直前の TOEIC スコアと比べて、平均で約 24.9 ポイントスコアが伸びた。また、直前の TOEIC スコアと比べプラスになった学生は、参加者全体の約 7 割であった。

結果として、履修した学生は概ね TOEIC スコアを伸ばし、今回の取組は一定の成果があったといえる。

スコアが前回と比べ伸びなかった学生にヒアリングしたところ、スコアには直接繋がらなかったが、海外講師と日本語を使用せず英語レッスンをしたことにより、テストでの問題文の読み上げにおいて大分聞き取れるようになった実感はあるという意見が多かった。Listening 能力開発の下地はできたかと思われる。



←Skype による海外とのリアルタイム英語レッスン

3 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組並びに効果的な語学教育及び教育体制

3-1 入試における中等教育までの外国語力、留学経験等の適切な評価

3-1-1 TOEIC、TOEFL、留学経験等考慮した入試制度改革

入学後の語学力伸長に向け、適切に入学者の語学力を評価するため、以下の項目を平成 26 年度推薦入試より新たに組み込んだ。また、H27 年度入試より、一般入試にも拡大し、以下のとおり外部試験の一定の点数を有している受験生は、英語科目を満点に換算する精度を導入する。

外部試験	<推薦入試:平成 26 入試～> > 推薦資格	<一般入試:H27 入試～> 英語科目満点換算
実用英検	準 2 級	準 1 級
GTEC for STUDENTS	500 以上	620 以上
GTEC CBT	720 以上	920 以上
TOEIC	400 以上	600 以上
TOEFL iBT	40 点以上	64 以上

※英語科目満点換算は、一般入試、スカラシップ入試が対象

高校生の留学経験については、教授会において推薦入試で活用することが承認された。もっとも、高校生の留学経験はその中身(質)が重要であり、その内容を十分に評価できる評価指標について、現在検討中である。

3-2 効果的な語学教育及び教育体制

3-2-1 入学前 TOEIC 講座の実施(継続)

新入生は入学後、プレイスメントテストとして、TOEIC を受験。ほとんどの学生が TOEIC 初受験のため、特徴ある TOEIC について何も知らないのが現状であり、時間配分、難易度において、躊躇する学生も多々見られた。

TOEIC というものを知ること、戸惑うことなく受験できるようにするために、入学者向け TOEIC 講座を実施した。また、同時に語学力を高め、入学時に受験する TOEIC スコア UP も狙う。

【実施概要】

- ・日時: 2014 年 3 月 25 日(月)、12:40-15:30
- ・講師: 神崎 正哉 氏

※TOEIC® テスト 990 点、英検 1 級、国連英検特 A 級、ケンブリッジ英検など英語の資格多数。

TOEIC 講座の第一人者

・参加人数： 79 人(入学者の約 1/3)



←TOEIC 講座の様

3-2-2 入学前留学ガイダンスの実施(継続)

語学力を伸ばすとともに異文化を体感し、グローバル人材としての資質を伸ばすためにも留学体験は非常に重要であることに鑑み、留学に興味を持ってもらうことを目的とする入学前に留学ガイダンスを実施した。(平成 26 年 3 月 25 日、参加人数 45 人)

3-2-3 学期毎のプレイスメントテスト(継続)

必修英語科目、クラス指定のある選択科目において、各人の語学習得度合い(TOEIC 最高スコア)により、学期毎にクラス分けを実施。これにより、各レベルに合った講義をすることで語学力を伸ばし、かつ、学生の上位クラスに進みたいという意識を醸成している。

▶参考

1・2 年生は 6 クラス、3 年生は 4 クラス、4 年生は 2 クラスで編成

3-2-4 1 対 1 英語コミュニケーション学修プログラムの導入

前述 2-2-2(「One on One English」の開催)に記載した通り、海外講師とのマンツーマンの英語レッスンプログラムを今期より導入した。

3-2-5 e-learning の充実

前述 2-2-2(「One on One English」の開催)に記載した通り、新しい e-learning システムを今期より導入した。

4 教員のグローバル教育力の向上

4-1 教育体制のグローバル化

本年度は1人の外国人教員等(*)の退職、2人の外国人教員等の採用により、前年度と比べ1人の外国人教員等の増員。結果として、全教員の44.1%が外国人教員等となっている。

前述の通り、本年度より英語で行う授業(Global Skills 科目)、海外講師との1対1の語学授業(One on One English)を開講するにあたり、語学力の高い非常勤講師の体制を敷いた。

*外国人教員等: 国外の大学での学位取得、もしくは通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む

4-2 グローバル教育力向上のための取組

アクティブ・ラーニング等の成果をマネジメントすること、カリキュラムを体系的に整えることを推進するために、毎年開催される授業開発研究会(FD研修会)において、関西国際大学の山下副学長を講師に招き、「教学マネジメント」について学んだ。また研修では、実際にルーブリックを運用するグループワークも体験した。なお、このFD研修会は、連携協定を締結している公立大学法人前橋工科大学との共同開催とし、前橋工科大学長以下複数の教職員が来学し、参加した。

5 日本人留学生の留学を促進するための環境整備

5-1 動機付けや留学を促進するための取組

5-1-1 留学ガイダンスの充実、提携校の充実

必修の海外留学科目以外の海外留学・体験科目(プログラム)は年2回、各1日の説明会を昨年度までは実施。より学生の興味を高め、疑問を解消するために前年度の参加者等の体験談、サポート会社による現地事業の説明等を交え、今年度からは年2回、各数回の説明会をプログラム別の実施した。

結果として、説明会の参加者は前年約3.2倍、プログラム参加者は前年約1.6倍となった。

また、協定・MOU締結大学は、昨年度までの5校に7校を加え、計12校となった。

5-1-2 海外留学・研修プログラム・提携大学の拡充、および海外大学への視察

海外留学・研修等のプログラムを拡充することにより、学生に対し選択の幅を拡げ、海外を体感する意欲を促す環境を整備した。今後も更なるプログラム拡充を検討している。

【平成25年度に追加した海外留学・研修プログラム】

- ・ミズーリサポートインターンシップ研修 (8月、アメリカ)
- ・ミッションコンプリート(課題解決)研修 (3月予定、タイ)

また、語学研修を中心に、計124人(参加見込み含む)が以下の海外留学プログラムに参加した。

海外を体感することは得るものが多く、留学プログラム参加学生は帰国後、語学に対する取り組み姿勢が積極的に変わってきている。そのようなことを鑑み、入学後、早い段階で参加できるようなフィールドワーク型の留学プログラムの企画立案をしていくことが今後の課題である。

内容	行き先	大学名	期間	参加人数
語学研修	カナダ	ブリタニアカレッジ	8月出発/4週間	10人
	中国	西北大学 (*交換留学)	8月出発/4週間	3人
			8月出発/6週間	1人
			8月出発/8か月	3人
	ニュージーランド	■ワイカト大学	8月出発/4か月	10人
			8月出発/7か月	5人
	オーストラリア	■マッコリー大学	'14年2月出発/6週間	14人*
ボンド大学		'14年2月出発/4週間	1人*	

			‘14年2月出発/6週間	6人
	アイルランド	■リムリック大学	‘14年2月出発/6週間	19人
	カナダ	■ブリティッシュコロンビア大学	‘14年2月出発/6週間	15人
	中国	上海大学	‘14年2月出発/4週間	2人
海外フィールドワーク	インドネシア		9月出発/2週間	11人
	韓国		9月出発/2週間	9人
サポート研修	アメリカ		8月出発/2週間	5人
課題解決研修	タイ		‘14年3月出発/2週間	10人

*上記人数には外国人留学生等4人含む

■:英語コース限定のプログラム

および、学生の海外留学プログラムの選択肢を増やすため、協定・MOU (Memorandum of Understanding) 締結、視察活動を実施した。

- ・協定・MOU) ヴェリコ・タルノヴォ大学 (BUL/5月)
ミズーリ州立大学 (USA/8月)
上海大学 (CHN/8月)
サンカルロス大学 (PHL/’14年2月)
ビサイア大学 (PHL/’14年2月)
ブリティッシュコロンビア大学 (CAN/’14年2月)
タマサート大学 (THA/3月)
- ・視察) トリニティ大学 (CAN/8月)
ランガラ大学 (CAN/8月)
マウントアイダ大学 (USA/8月)
上海交通大学 (CHN/8月)
華東師範大学 (CHN/8月)
韓国高麗大学 (KOR/8月)
群馬県 上海事務所 (CHN/8月)
サンカルロス大学 (PHL/9月)
ビサイヤ大学 (PHL/9月)
セブ工科大学 (PHL/9月)
タマサート大学 (THA/’14年3月)

【協定・MOU 締結済み】

リンフィールド大学(USA) マッコリー大学(AUS) ワイカト大学(NZL)
リムリック大学(IRL) 西北大学(CHN)

5-2 留学中から帰国後にわたるサポート体制

留学中においては、学修についての現地でスムーズに解決できないことから、日々の些細な相談まで、昨年度私立大学教育研究活性化補助金で購入した遠隔映像システムおよび Skype 等を利用したりリアルタイムで学生とやり取りできる環境を整備し、体面で派遣学生への。

また、グローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴う、独立行政法人日本学生支援機構からの平成 25 年度留学生交流支援制度の奨学金(採択枠)により、対象留学者に対し、192 人月分(申請)の支援をすることができた。

6 その他

6-1 次年度以降のプログラム開発に向けた取組

▶GOE(Global Online Education)

グローバル人材育成推進協議会のメンバーである明治大学文明とマネジメント研究所と協働して、フィリピン在住の大学生と本学学生および教員とオンラインで結び、それぞれの国の状況、生活習慣、物事の考え方など多岐に渡り、ディスカッションを交え、ゼミ形式で理解を深める授業の開講準備をすすめている。この取組には同じくグローバル人材育成推進事業に採択されている杏林大学並びに実践女子大学も加わっており国内大学間連携も構築しつつある。

▶ブルガリア関連科目の開講

本年6月に締結したブルガリア ヴェリコ・タルノヴォ大学との学術交流協定に基づき、来年度からブルガリア関連科目を開講し、ヴェリコ大との交換留学も同時に視野に入れ、具体的検討を始めた。

▶小学校英語活動講座の開講

‘14年2月、トライアルとして春季集中講座として、小学校教員を目指す学生向けに英語教育についての講座を開講した。現状、本学では小学校教育には特化せずいわゆる児童英語全般の教育技法を身につける「児童英語教師養成プログラム」を設置しているが、本講座は、小学校における外国語活動の必修化並びに、今後の小学校における英語の教科化等を見据え、小学校における英語教育に特化した講座とした。次世代のグローバル人材を育てる人材の養成という本学構想の一端を担う取組である。

▶アジア圏フィールドワークプログラム(GPW V)

グローバルを体感する第1歩としての海外フィールドワークを実施する予定である。このプログラムは行き先をアジア圏とすることにより、参加費用を抑え、学生が参加しやすいものとする。

6-2 グローバル人材育成推進事業採択大学との連携

▶事業採択大学との情報共有

東京を除く東日本のグローバル人材育成推進事業に採択された大学として、以下の会議に出席。各校の事業取組を共有することにより、次年度以降の本学における取組みの参考になった。

- ・11/7(木) 東日本ブロック会議 (場所:北海道大学)
- ・’14年 3/5(水) 東日本ブロック会議 (場所:東北大学)

▶神田外語大学(採択校)との連携による地元高校生向け公開講座の開催 (前述 1-3-3)

▶第1回 Go Global Japan EXPO に参加(前述 1-3-4)